

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200033		
法人名	社会福祉法人 緑樹会		
事業所名	グループホーム安樹		
所在地	徳島県鳴門市大麻町松字東山田57-10		
自己評価作成日	令和2年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々に囲まれ季節によって様々な自然の表情を楽しむことが出来る環境の中地域の方々と交流を持つことの出来る行事を実施している。盆踊りなど季節の行事に参加して頂いたり、また、地域の小学校の運動会や発表会の見学や近隣の飲食店での食事会など外出する機会を月に1回以上設けている。運営推進会議では、民生委員や市役所、消防署、駐在署などにご参加頂き地域の実情・要望などを把握出来るよう努めている。また事業所として「一日一笑」という理念を掲げ、入居者様、職員共に笑顔の絶えない温かい環境作りを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、四季折々の木々に囲まれた幹線道路沿いに位置している。理念として、“利用者様に自由な時間を提供する”、“良質な環境を整える”、“一日一笑、毎日笑顔の絶えない時間提供する”の3つを掲げ、利用者一人ひとりの笑顔が絶えない温かい空間づくりに取り組んでいる。敷地内には、併設の他サービス事業所があり、行事や防災訓練など協力・連携して取り組んでいる。また、他サービス事業所に看護師等の専門職が常勤しているため、夜間等の緊急時における対応についても、連携体制を整えている。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外出支援等が制限されるなかでも、利用者が充実した生活を送ることができるよう、敷地内の畑での野菜づくりや食事に好みのものを取り入れるなど工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「利用者様に自由な時間を提供する」「良質な環境を整える」「一日一笑、毎日笑顔の絶えない時間を提供する」を掲げ、毎日の唱和を実践している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。毎日、申し送りの際に理念を唱和し、職員間で共有化を図りつつ、支援に取り組んでいる。また、事業所内に理念を掲示したり、事業所だよりに理念を記載したりして、利用者や家族等にも理念を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事や地域の小学校、地域の行事への参加や併設サービスの利用者様など相互に行き来したり、地域での買い物会や食事会を定期的に地域と関わりを持つ機会を設けている。	事業所では、自治体に参加するなど、地域の一員として日常的に交流している。感染症(コロナ等)の流行下においても、散歩をしている地域住民に挨拶を交わしたり、近隣の桜並木の清掃に出かけたりして、地域とのつながりを継続するよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の事業所との協力の下、地域の老人会の方々を対象に施設見学会の実施や認知証サポーター養成講座への参加など認知証の理解や日常の取り組みなどを説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様、その御家族様、民生委員の方々や多方面の方にご参加頂き事業所の現状や日常の取り組みなどを報告したり、地域の実情や要望などをお伺いし、取り組みに活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、事業所内で協議した内容を報告書に記載し、各委員のもとへ直接届けるなど、意見を得ることができるよう工夫している。出された意見等は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の月報の提出で現況報告を行うとともに月に2回市の介護相談員の受け入れを行い年に2回市の職員を交え介護相談員の報告会を実施しているほか、運営推進会議にもご参加頂いている。	管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問している。担当者に事業所の状況を報告し、意見交換を行うことで、顔の見える関係づくりを心がけている。感染症の流行に伴い、介護相談員の報告会は中止しているが、連絡を取り合い、関係性の継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での研修や事業所内での委員会活動を通して身体拘束防止についての知識や理解を深めることが出来ている。現在事業所内には身体拘束の対象者はいない。	事業所では、3か月に1回、身体拘束防止委員会を開催し、身体拘束の内容や弊害について、職員間での周知・理解を図っている。ベランダやデッキは自由に出ることができ、利用者が閉塞感を感じることのないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修会を開催し、知識の習得及び虐待防止の徹底、意識の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修会を開催し、権利擁護に関する制度について学び全職員が制度の内容を理解できるように努めると共に人権を尊重したサービスの提供が出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき十分な説明を行うと共に疑問点などの確認を行い、ご理解を頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	安心して要望等が話せる雰囲気作りをし、御家族様の面会時には職員の方からもお声かけをさせて頂いている。また、意見箱の設置や受付窓口や第三者委員等を明示し受付体制を整備している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等をききとっている。家族等については、来訪時に話しかけたり、意見箱を設置したりして、意見等の把握に努めている。感染症の流行下では、毎月メッセージカードを送付したり、SNSを活用したりして、意見を得るよう工夫している。出された意見等は、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からのヒアリングやワーカー会、定期的なラウンドを行う事で意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させている。	管理者は、申し送り時や月1回のワーカー会議の際に、職員から意見や提案などをききとっている。毎日2回、各ユニットをまわることで、支援の様子を確認しつつ、意見等の聴取に努めている。出された意見等について、職員間で協議し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己点検シートにて自己目標の設定、考課表により目標達成度の自己・他己評価を行っている。職員面接を行い就業状況や職場環境などの聞き取りを行い環境整備や職員のやりがいに繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員全体を対象とし、年間計画を立てて取り組んでいる。また、外部研修などにもなるべく多くの職員が参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極的な参加や県外事業所の現場実習などに取り組み、交流を深めることでネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時にご本人との面接にて、要望や困りごとのお伺いをすると共に、定期的にお声かけをすることで信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や面会などで来苑された時に要望や相談事がないかお声かけを行い、現況報告をさせて頂く事で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合は現状の把握に努め、状態を見極める。また、他のサービス担当者と相談を重ねその時に必要サービス提供に繋げていけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯など出来ることに取り組んで頂き、出来ないところは職員がお手伝いをしている。共に協力し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や外出など一緒に楽しんで頂ける機会の提供や定期的に現況報告を行い、御家族様にご相談することで本人様について一緒に考えさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴を把握し、時には御家族様のご協力を頂きながら継続した生活が送れるよう支援している。	事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等から、本人の馴染みの関係性についてききとっている。感染症の流行下においても、知人や友人等との手紙や年賀状のやり取りを支援するなど、関係性の継続に向けて取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事参加を通して、入居者様同士の関係構築に努めると共に常に入居者様同士の関係把握を行い過ごしやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も状況に応じて現状把握に努め、継続して関わりを持たせて頂いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人様の生活歴や希望を聞き取り行う。また、日頃の会話や行動からご本人の日頃の会話や行動からご意向をくみ取り、その人らしい生活が送れるよう支援している。	職員は、日ごろの支援のなかで、表情や仕草などから、利用者一人ひとりの思いや意向等を把握するよう努めている。理念に基づいて、利用者の笑顔が自然に表出されるよう、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談にてご本人や御家族様から生活スタイルを聞き取りしサービス提供に反映できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを取り、細かな変化も必ず情報共有を行い、職員全体で現状把握や統一した支援の提供が出来るよう努める。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の現状把握、、ご本人や御家族の要望や希望を踏まえ多職種共同で会議を行い、多方面から考え、現状に適した計画を立案している。	事業所では、利用者や家族等の意向等を踏まえたうえで、併設の他サービス事業所の看護師や協力医療機関等と連携しつつ、介護計画を作成している。月1回のモニタリングや3か月に1回の見直しにより、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常の生活状況や様子について記録し、情報共有や支援方法についての見直しなどに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者様の現状把握を行い、個々の生活や趣味活動などそれぞれの要望にあった支援が出来るよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物会や食事会で近隣に外出したり、これまでのかかりつけ医での受診など地域資源の活用しつつ、顔なじみの関係が継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医や希望する医療機関を確認し、継続して受診を受けて頂く。また、事業所の方からも相談や報告をおこない関係の構築に努めている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。月2回、協力医療機関の訪問診療がある。緊急時には、併設の他サービス事業所の看護師に連絡をとり、随時対応できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃より併設施設の看護師に相談・報告を行っており、医療的説明などは看護師を通してかかりつけ医等に報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には定期的に伺いに行き、担当医や看護師に状態確認を行っている。また、ソーシャルワーカーとも連携を取り御家族様を交えて退院後の生活について相談させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針や対応方法の説明を行うと共に、入居時や状態変化に応じてその都度ご本人や御家族の意向、医師の意見を踏まえながら今後の方向性や対応について検討・決定している。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の方針について、利用者や家族等に説明している。本人の心身状況の変化に応じて、医療関係者等と連携を図りつつ、チームで支援に取り組んでいる。職員は、法人で開催される、週目付きのケアに関する研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアルを作成している。また、法人内で研修会を行い実践できるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修会を開催するほか、年に2回夜間、日中想定での訓練を実施している。また、消防署や市役所などの情報交換を行い連携を図っている。	事業所は、年2回、法人内の他サービス事業所等と合同で、防災訓練に取り組んでいる。日中・夜間を想定し、消防署の立ち会いのもと、訓練を行っている。備蓄も他の事業所と連携し、1週間分を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや倫理に関する研修会を行い、プライバシーの確保、自尊心を傷つけないケアやお声かけの仕方を意識し快適に生活できるよう支援している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の人格を尊重した支援に取り組んでいる。利用者一人ひとりの思いや意向等を把握しつつ、本人本位の支援に努めている。月1回のワーカー会議等で、利用者の誇りやプライバシーについて協議し、意識の共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者様ご自身の思いや要望を伝えやすい雰囲気作りに努め、職員も気づきや慶弔を意識し自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握し、日常生活での活動や趣味活動などがご本人のペースで取り組めるように心身状態の変化に配慮しながら支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際はご自身で衣類を選んで頂いている。整容も出来ないところはお手伝いをさせて頂いている。また、お化粧をされる方には継続していけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、後片付けなど役割を持って参加して頂くと共に、入居者様の嗜好を考慮した献立作成、定期的な食事会の開催を行っている。	食事は、事業所で調理したものを提供している。配膳や机ふき、後片付けなどは、利用者とともに取り組むことで、生きがいに繋げている。敷地内で採れた野菜を活用したり、おやつを買ってきたりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事や水分量のチェックを行うと共にメニューの栄養バランスや摂取量の少ない方への対応等を併設施設の管理栄養士に相談し助言を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。必要に応じてご本人や御家族に説明し、随時の歯科往診と週1回の歯科衛生士による歯科クリーニングを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を中心に排泄誘導を行い自立に向けたケアを行っている。	事業所では、排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。把握したパターンに基づいて、できる限りトイレで排泄することができるよう、支援している。適切な水分補給や体感マッサージを行うことで、気持ちよく排泄することができるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と適度な運動、腹部マッサージの実施、看護師とも相談しながら自然排便が出来るよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯、希望に沿った支援を心掛けている。	事業所では、週に2～3回は入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの希望や体調に応じて、時間帯を変更したり、足浴や清拭を行ったりしている。また、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯を行うなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムを把握し、体調に合わせた日中活動の促進に努めることで昼夜のリズム作りを行うと共に不眠傾向のある方には医師や御家族様と相談しながら対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往や服薬内容・目的の理解、服薬チェック表の活用により、誤訳防止に努めている。定期受診時などにご本人の状態や日常の記録を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントや入居後の言動、行動からご本人の出来ることやしたいことを見だし役割や楽しみのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の食事会や買い物会、お花見や散歩など定期的に実施すると共に、年1回県内外へ遠足を企画するなど御家族様にもご協力頂きながら外出する機会を設けている。	事業所では、利用者一人ひとりの希望に応じて、外出支援を行っている。感染症の流行下においても、敷地内を散歩したり、ベランダで花を育てたりして、少しでも外気に触れることができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があれば御家族の了解の下、施設への訪問販売や買い物会などで払えるよう支援を行っている。管理が難しい方は事業所で管理し定期的にご本人、御家族にご確認頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて御家族様にもご協力頂いて手紙のやりとりや電話が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の希望に応じて御家族様にもご協力頂いて手紙のやりとりや電話が出来るよう支援している。	共用空間には、大きなソファを設置して、利用者同士で話しあうことができるようにしている。壁面には、利用者と職員と一緒に作成したカレンダーや飾り付けを行い、季節感を感じることができる。定期的に換気も行い、感染症の予防に努めるとともに、居心地よく過ごすことができるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを複数設置し、1人で新聞を読んだり、気の合う方同士で会話を楽しんだりするスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様の馴染みの家具などを持ち込み頂き、自宅での生活が継続できる環境作りを行い、居心地が良く安心して生活ができる居室作りに配慮している。	居室には、利用者が使い慣れた家具や家電などを持ち込んでもらっている。壁面には、家族の写真や趣味の作品等を飾り、居心地良く過ごすことができるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活全般において残存能力の維持が出来るようサポートし、各居室には名札、トイレや浴室なども分かりやすいように表示をし自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「利用者様に自由な時間を提供する」「良質な環境を整える」「一日一笑、毎日笑顔の絶えない時間を提供する」を掲げ、毎日の唱和を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設の行事や地域の小学校、地域の行事への参加や併設サービスの利用者様など相互に行き来したり、地域での買い物会や食事会を定期的に地域と関わりを持つ機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の事業所との協力の下、地域の老人会の方々を対象に施設見学会の実施や認知証サポーター養成講座への参加など認知証の理解や日常の取り組みなどを説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の事業所との協力の下、地域の老人会の方々を対象に施設見学会の実施や認知証サポーター養成講座への参加など認知証の理解や日常の取り組みなどを説明している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様、その御家族様、民生委員の方々や多方面の方にご参加頂き事業所の現状や日常の取り組みなどを報告したり、地域の実情や要望などをお伺いし、取り組みに活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での研修や事業所内での委員会活動を通して身体拘束防止についての知識や理解を深めることが出来ている。現在事業所内には身体拘束の対象者はいない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修会を開催し、知識の習得及び虐待防止の徹底、意識の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修会を開催し、権利擁護に関する制度について学び全職員が制度の内容を理解できるように努めると共に人権を尊重したサービスの提供が出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき十分な説明を行うと共に疑問点などの確認を行い、ご理解を頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	安心して要望等が話せる雰囲気作りをし、御家族様の面会時には職員の方からもお声かけをさせて頂いている。また、意見箱の設置や受付窓口や第三者委員等を明示し受付体制を整備している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からのヒアリングやワーカー会、定期的なラウンドを行う事で意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己点検シートにて自己目標の設定、考課表により目標達成度の自己・他己評価を行っている。職員面接を行い就業状況や職場環境などの聞き取りを行い環境整備や職員のやりがいに繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員全体を対象とし、年間計画を立てて取り組んでいる。また、外部研修などにもなるべく多くの職員が参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極的な参加や県外事業所の現場実習などに取り組み、交流を深めることでネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時にご本人との面接にて、要望や困りごとのお伺いをすると共に、定期的にお声かけをすることで信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や面会などで来苑された時に要望や相談事がないかお声かけを行い、現況報告をさせて頂く事で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合は現状の把握に努め、状態を見極める。また、他のサービス担当者や相談を重ねその時その人に必要なサービス提供に繋げていけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯など出来ることに取り組んで頂き、出来ないところは職員がお手伝いをしていく。共に協力し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や外出など一緒に楽しんで頂ける機会の提供や定期的に現況報告を行い、御家族様にご相談することで本人様について一緒に考えさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴を把握し、時には御家族様のご協力を頂きながら継続した生活が送れるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事参加を通して、入居者様同士の関係構築に努めると共に常に入居者様同士の関係把握を行い過ごしやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も状況に応じて現状把握に努め、継続して関わりを持たせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人様の生活歴や希望を聞き取り行う。また、日頃の会話や行動からご本人の日頃の会話や行動からご意向をくみ取り、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談にてご本人や御家族様から生活スタイルを聞き取りしサービス提供に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを取り、細かな変化も必ず情報共有を行い、職員全体で現状把握や統一した支援の提供が出来るよう努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の現状把握、ご本人や御家族の要望や希望を踏まえ多職種共同で会議を行い、多方面から考え、現状に適した計画を立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常の生活状況や様子について記録し、情報共有や支援方法についての見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者様の現状把握を行い、個々の生活や趣味活動などそれぞれの要望にあった支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物会や食事会で近隣に外出したり、これまでのかかりつけ医での受診など地域資源の活用をしつつ、顔なじみの関係が継続できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医や希望する医療機関を確認し、継続して受診を受けて頂く。また、事業所の方からも相談や報告をおこない関係の構築に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃より併設施設の看護師に相談・報告を行っており、医療的説明などは看護師を通してかかりつけ医等に報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には定期的に伺いに行き、担当医や看護師に状態確認を行っている。また、ソーシャルワーカーとも連携を取り御家族様を交えて退院後の生活について相談させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針や対応方法の説明を行うと共に、入居時や状態変化に応じてその都度ご本人や御家族の意向、医師の意見を踏まえながら今後の方向性や対応について検討・決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアルを作成している。また、法人内で研修会を行い実践できるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修会を開催するほか、年に2回夜間、日中想定での訓練を実施している。また、消防署や市役所などとの情報交換を行い連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや倫理に関する研修会を行い、プライバシーの確保、自尊心を傷つけないケアやお声かけの仕方を意識し快適に生活できるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者様がご自身の思いや要望を伝えやすい雰囲気作りに努め、職員も気づきや慶弔を意識し自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握し、日常生活での活動や趣味活動などがご本人のペースで取り組めるように心身状態の変化に配慮しながら支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際はご自身で衣類を選んで頂いている。整容も出来ないところはお手伝いをさせて頂いている。また、お化粧をされる方には継続していけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、後片付けなど役割を持って参加して頂くと共に、入居者様の嗜好を考慮した献立作成、定期的な食事会の開催を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事や水分量のチェックを行うと共にメニューの栄養バランスや摂取量の少ない方への対応等を併設施設の管理栄養士に相談し助言を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。必要に応じてご本人や御家族に説明し、随時の歯科往診と週1回の歯科衛生士による歯科クリーニングを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を中心に排泄誘導を行い自立に向けたケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と適度な運動、腹部マッサージの実施、看護師とも相談しながら自然排便が出来るよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯、希望に沿った支援を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを把握し、体調に合わせた日中活動の促進に努めることで昼夜のリズム作りを行うと共に不眠傾向のある方には医師や御家族様と相談しながら対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往や服薬内容・目的の理解、服薬チェック表の活用により、誤訳防止に努めている。定期受診時などにご本人の状態や日常の記録を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントや入居後の言動、行動からご本人の出来ることやしたいことを見だし役割や楽しみのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣での食事会や買い物会、お花見や散歩など定期的実施すると共に、年1回県内外へ遠足を企画するなど御家族様にもご協力頂きながら外出する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニットⅡ 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望があれば御家族の了解の下、施設への訪問販売や買い物会などで自分で払えるよう支援を行っている。管理が難しい方は事業所で管理し定期的にご本人、御家族にご確認頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて御家族様にもご協力頂いて手紙のやりとりや電話が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の希望に応じて御家族様にもご協力頂いて手紙のやりとりや電話が出来るよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを複数設置し、1人で新聞を読んだり、気の合う方同士で会話を楽しんだりするスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様の馴染みの家具などを持ち込みして頂き、自宅での生活が継続できる環境作りを行い、居心地が良く安心して生活出来る居室作りに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活全般において残存能力の維持が出来るようサポートし、各居室には名札、トイレや浴室なども分かりやすいように表示をし自立した生活が送れるように工夫している。		